

社会人になってからのどのような経験が仕事で 幸せを感じて活躍することにつながるのか

パーソル総合研究所

シンクタンク本部 研究員 砂川 和泉

これからの社会を生きる若手社会人にとって、幸せを感じながら仕事をし、パフォーマンスを発揮することは極めて重要だ。毎日の多くの時間を費やす仕事で幸せを感じながら活躍することは、日常生活を充実させるだけでなく、キャリアの長期的な成功にも繋がりやすく、豊かな人生を築く大切な要素といえる。同時に、企業としても、自社の従業員が幸せを感じつつモチベーションを維持しながら高いパフォーマンスを発揮することは、持続的な成長の礎となる。

では、若手社会人が幸せに活躍するために、本人と企業は何をしたらいいのだろうか。

今回、未来を生きる高校生～若手社会人が、幸せに働く未来を描き、意欲を持って学びや行動へと向かうための羅針盤を届けることを目的として、「大人の学び」の専門家である立教大学の中原淳教授、教育に関する調査・研究を行っているベネッセ教育総合研究所、働く人や組織に関する調査・研究を行っているパーソル総合研究所の3者が共同で産学連携の研究プロジェクト（『ハタチからの「学びと幸せ」探究ラボ』）を発足し、25～35歳の若手社会人の幸せにつながる学生時代の学びや社会人になってからの経験について探求を行った。

そこで実施した「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」の結果から、幸せを感じながら活躍している若手社会人の特徴を見てみると、以下の5つの学び方が重要であることが分かった。詳しくはコラム「仕事で幸せを感じ活躍している若手社会人に見られる「5つの学び方」とは」※1で紹介している。これらの学び方を実践することで、若手社会人は幸せを感じながら活躍することができる。

<幸せな活躍につながる「5つの学び方」>

- 1：人を巻き込んで学ぶ「ソーシャル・ラーニング」
- 2：困難な事からこそ学ぶ「ラーニング・レジリエンス」
- 3：いくつかの学びや経験を架橋する「ラーニング・ブリッジング」
- 4：一貫してコツコツ学び続ける「ラーニング・グリット」
- 5：デジタルツールを積極的に使う「ラーニング・デジタル」

※1 パーソル総合研究所「仕事で幸せを感じ活躍している若手社会人に見られる「5つの学び方」とは」
<https://rc.persol-group.co.jp/thinktank/column/202311210001.html>

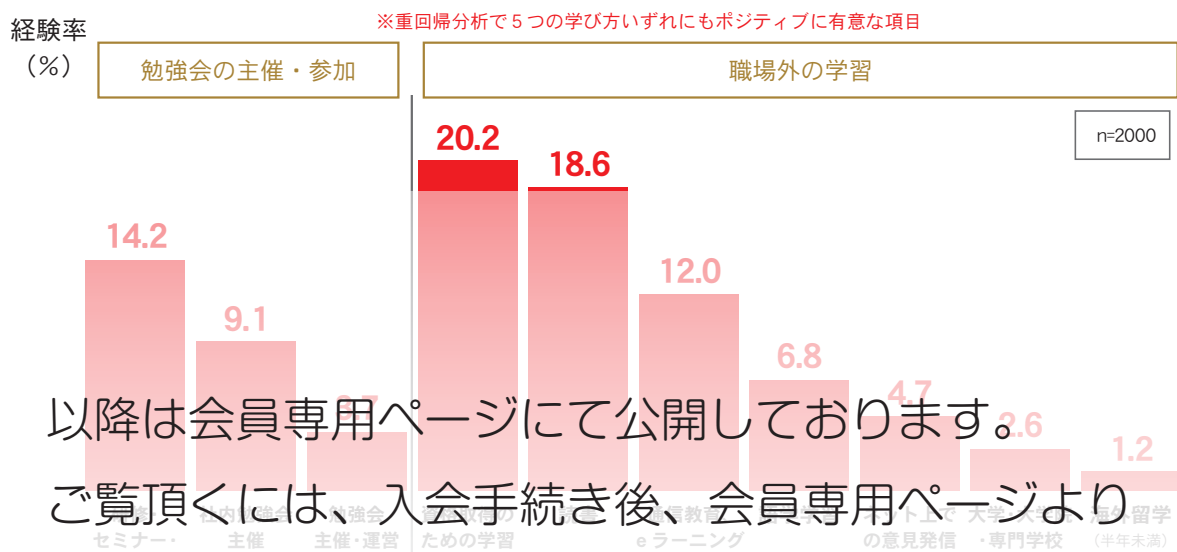
この幸せな活躍につながる5つの学び方はどのようにして身につけることができるのだろうか。本コラムでは、これらの学び方を習得するための仕事経験や社会人になってからの学習経験について詳しく掘り下げていきたい [注1] [注2]。

主体的な学習が幸せな活躍につながる

まず、社会人になってからのどのような学習経験が上記の5つの学び方に影響を与えているかを見てみよう。幸せな活躍につながる学び方に関連する学習経験を見てみると、主体的な学習、つまり自分から学びに取り組む経験が、5つの学び方とポジティブに関連している。例えば、勉強会を主催する経験、資格取得のための学習、社会人になってからの大学院進学などが該当する。

しかし、実際には、このような学びの経験を持つ人は2割以下にとどまっている（図1）。例えば、社内で勉強会を主催した経験がある人は9.1%で、勤務時間外に勉強会の主催・運営をしたことがある人はわずか3.7%しかない。これらの学びの経験が幸せな活躍に関連していることを考えると、多くの人が主体的な学びに取り組むことで幸せな活躍を実現できる余地は大きい。

図1 5つの学び方とポジティブに関連する学習行動の経験率



以降は会員専用ページにて公開しております。
 ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
 アクセスをお願いします。

出所：パーソル総合研究所・ベネッセ教育総合研究所・中原淳
 「若年就業者のウェルビーイング」

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)